

2013年度 前期		リフレクションペーパー					
学科名	情報学科						
科目名	オブジェクト指向プログラミング						
科目区分	専門科目	単位数	2単位	開講時期	2年次前期		
必修・選択の別	必修科目(ネットワークコース) 選択科目(ソフトウェアコース)						
担当者	八尋 秀一						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> 既存のクラスを継承したり、インターフェースを実装して新しいクラスを作ることが出来る。 例外の意義を理解し、例外の送出、受け取り、表示などの例外処理を行うことが出来る。 ストリームを利用して簡単な入出力を行うことが出来る。 スレッドの概念とそれを利用した並列処理について知っている。 						
日程と内容	<p>第1回：導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法</p> <p>第2回：クラスの基本的構造について復習する。</p> <p>第3回：新しいクラスを定義するための継承の概念と応用について説明する。</p> <p>第4回：メソッドのオーバーライドについて説明する。</p> <p>第5回：スーパークラスの変数やメソッドをサブクラスから使用できるようにする方法、オーバーライドを許さないための方法、そして、Objectクラスの役割とそのメソッドについて説明する。</p> <p>第6回：抽象クラスの概念と役割、オブジェクトが所属するクラスを判定するメソッドを説明する。</p> <p>第7回：インターフェースの概念と役割、インターフェースの実装、抽象クラスとインターフェースとの相違、インターフェースの継承について説明する。</p> <p>第8回：多重継承の概念を説明する。クラスとインターフェースを用いた多重継承について説明する。</p> <p>第9回：パッケージとアクセスコントロール、パッケージの階層関係とパッケージとフォルダーの関連、パッケージ名を用いたクラス名とインポートによる簡略化について説明する。</p> <p>第10回：例外の仕組みと例外の処理方法、例外を表すクラスについて説明する。</p> <p>第11回：ストリームの概念と入出力の考え方を説明する。入出力に伴う例外について説明する。</p> <p>第12回：ファイルからの入出力とそれに伴う例外について説明する。</p> <p>第13回：スレッドの仕組み、作成方法、同期方法などを説明する。</p> <p>第14回：アプレットの仕組み、簡単なグラフィックスの方法などを説明する。</p> <p>第15回：総合演習-演習課題を提示しプログラミング演習を行う。</p>						
成績評価基準	定期試験	100%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	講義で教科書を見ながら理論を学習するスタイルであったが、本講義の直後に演習授業があり、演習を通して理解を深めることができた。プログラミングは理論と実践の両方を効率よく行うことが必要であるが、学生たちの態度も良く、多くの学生が十分に理解できたと考える。しかし、試験は正確な理解を計るものなので、やや理解不足の学生が何人かいることがわかったが、多くの学生は大変優秀な成績を修めてくれたことは、80%の達成度であると考え。						
反省点	板書とパワーポイントの両方を使って講義を行った。パワーポイントのときは進行速度が速すぎて、学生たちはわかった気分になるだけで、記憶にあまり残っておらず、理解も浅くなっていたように感じた。しかし、板書だけのときは、進行速度が極端に遅く、学生たちの集中度を維持させることができずに、他のことを話して気分を変える工夫をしなければならなくなった。						
来年度の計画	板書とパワーポイントの両方をうまく使い分け、進行速度を調節しながら工夫していきたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	学生たちの授業に対する率直な意見を聞くことができたので、大変良かった。						
履修登録者数	47名	定期試験 受験者数	45名	合格者数	45名	合格率	100%